議　事　録

（会議名：地域連携推進会議）

日　時	令和８年　９月　25 日(金)　10：00 ～ 11：15	場所	３階談話室
出席者	虹の家施設長、虹の家ご利用者１名、虹の家保護者会 会長、麻溝地区民児委員協議会１名 相模原市南高齢・障害者相談課１名、大下自治会役員 会長１名、相模原市社会福祉協議会１名、 障がい者支援事業所 理事長１名、相模原市立の小学校 校長、虹の家係長２名、虹の家相談員３名		
議　題	１：司会より地域連携推進会議の趣旨説明　２：出席者自己紹介　３：施設長より挨拶 ４：虹の家の取り組みについて　５：質疑応答　６：施設見学		

1.【司会より地域連携推進会議の趣旨説明】

地域連携推進会議を開催するにあたっての趣旨・目的について説明する。

2.【出席者自己紹介】

出席者の方一人ひとり自己紹介した後、下山施設長より、挨拶を頂く。

3.【施設長より挨拶】

本日の開催で４回目となります。継続してご参加頂いている皆様や初めての参加となる皆様に心より御礼申し上げます。地域連携推進会議は単に施設の取り組みを伝える場ではなく、地域の皆様や関係機関からの率直なご意見を頂きながら地域の中で今後どのような役割を目指していくのか一緒に皆様と考えていく場だと考えています。

①これからの虹の家について、入所施設の在り方について考える。

現在、入所施設については地域移行を進めること、本人の意思を尊重した暮らしを実現すること。その一方で、重度化・高齢化したご利用者を支えるセーフティーネットとしての役割を担う事が求められています。

虹の家でもご利用者の重度化・高齢化が進んでおり、医療的な配慮や食事・入浴・排泄・更衣等、日常生活の中で一対一の支援が必要となるケースが増えています。その為、現状では地域移行に結び付くケースがほとんど無いというのが正直なところです。

「地域移行が進んでいない」という結果だけで捉えるべきではないと考えています。本当にその人にとって地域移行が望ましいのかを丁寧に考える必要があります。同時に、地域移行の可能性を最初から閉ざしてしまうことも避けなければなりません。

虹の家そのものを、これからの障害福祉に合った暮らしの場へ変えていくことが必要だと考えています。

②虹の家は今後建て替えか、改修か、日中サービスを利用できる小規模グループホーム等について

今後、虹の家では、施設整備として大きく３つの方向性を視野に入れて検討しています。

1. 新施設建て替えの実施（虹の家を全面的に建て替える）

2. 既存の建物を活用しながら、居室の個室化等の必要な改修を行うこと。

3. 定員 30 名・30 名程度に分け、もう一つの機能を施設外に日中サービス型のグループホーム等として

議　事　録

（会議名：地域連携推進会議）

議　題	１：司会より地域連携推進会議の趣旨説明　２：出席者自己紹介　３：施設長より挨拶 ４：虹の家の取り組みについて　５：質疑応答　６：施設見学

展開する等、入所施設と地域生活を分けていくことです。

来年度の障害福祉サービス等報酬改定において、入所施設の今後の在り方について、さらに具体的な方向性が

示される可能性があります。その動向も見極めながら、法人と、相模原市と協議を進め、次年度の市の予算に

組み入れて頂けるよう、必要な整備について具体的に提案していきたいと考えています。

ただし、どの整備方法を選ぶとしても、私が最も大切にしたいことがあります。それは、ご利用者一人一人に

「その人らしい暮らし」が見える環境を提供することです。単なる寝る場所ではなく、その人自身の生活の場に

変えていきたいと思っています。

建物を新しくすること自体が目的ではありません。建物を変えることで、通ってくる利用者も含めて、利用者の

暮らしと支援の質をどう変えるのか。そこを軸に考えていきたいと思っています。

尚、たんぽぽの家では施設建て替えに関して、現在 11 月に建て替え（規模は 100 床）完了で進んでいる。

③人材確保と外国人人材の受け入れ

虹の家の大きな課題の一つとして、人材確保です。

求人の募集はかけているが中々採用には繋がっていない。人材の確保が難しい状況となっています。

これからは人材を確保するだけではなく、限られた人材をどのように活かし、専門性を高め、チームとして支援

できる組織をつくるかが重要になります。その一環として、外国人人材の採用にも取り組んでいます。現在

ベトナム人職員を１名雇用しています。今後、年内を目途にネパール人２名・インドネシア人２名の

特定技能人材の採用も予定しています。

外国人職員を「労働力」として見るのではなく、同じ福祉の仕事を担う仲間として育てていく事が重要だと

考えています。そしてこれは、外国人職員だけの問題ではありません。

日本人職員も含め、互いの強みを活かしながら、誰もが働き続けられる職員をつくることが、これからの

虹の家で必要だと思っています。

④地域連携推進会議に期待していること

施設の将来を考えるうえで、私たちだけで答えを出すのではなく、地域の皆様からのご意見を頂くことが非常に

議　事　録

（会議名：地域連携推進会議）

議　題	１：司会より地域連携推進会議の趣旨説明　２：出席者自己紹介　３：施設長より挨拶 ４：虹の家の取り組みについて　５：質疑応答　６：施設見学

重要だと考えています。

地域の資源・人・場所・学校・企業・自治会・医療・福祉関係機関等と繋がりながら、皆様のご協力のもと

ご利用者の生活を支えていく必要があります。

地域移行が難しい方であっても、「地域から離された生活」になってはいけません。施設で暮らし続ける方に

とっても、地域との繋がりや社会参加の機会をどうつくるかは、私たちの大きな課題です。

まとめ

虹の家は、これから大きく変わらなければならない時期に来ています。

建物の在り方・人材の確保、地域移行、支援の専門性、重度・高齢化したご利用者の暮らしをどう支えていく

のか。課題は決して一つではありません。

「課題があるからこそ、これからの虹の家をつくり直すことが出来る」と考えています。

施設の形も、支援の在り方も、職員の働き方も変えていきたいと思っています。

4.【虹の家の取り組みについて施設職員が説明】

〇入所の活動等について

今年度より入所のグループ名を新しくし、より活動内容を分かり易くするためアクティビティーグループ・

ものづくり＆リラックスグループ・ウェルビーグループ・ワーク＆デリバリーグループ・みんなのファームの

グループ 5 つの構成となっている。

男性・女性入所者の重度高齢化が進んでいる（平均 50 歳以上）ことにより、運動機能が落ちている方が多く

なっている。足の浮腫みの改善を目的に運動・ストレッチ・マッサージ等を行っていきたいと考えている。

活動の中には、地域清掃や行事（イベント）を通じて地域との交流を行っています。地域の祭りに

参加し自主製品（ストラップやムクロジ等）の販売等を行っています。

意思決定支援として入所者の意思を都度確認して支援を行っています⇒畑の作業を行いたい。

ドライブに行きたい。花の花壇の手入れを行いたい等。

〇短期入所・日中一時支援について

虹の家・日中サービス虹の星・ケアセンターやすらぎ

議　事　録

（会議名：地域連携推進会議）

議　題	１：司会より地域連携推進会議の趣旨説明　２：出席者自己紹介　３：施設長より挨拶 ４：虹の家の取り組みについて　５：質疑応答　６：施設見学

日中一時支援・短期入所はそれぞれ 10 名/日までとなっている。利用される方の理由としては、冠婚葬祭や

保護者のレスパイトにより利用される方が多い。短期入所の調整は相談員が行っている。

〇通所について

ご自宅やグループホームから通われているご利用者。通所にはケアセンターやすらぎ・日中サービス虹の星・

従たる事業所双葉に分かれている。全体の約８割が男性となっています。入所者に比べ若い利用者が多い。

保護者の想いとして、運動プログラムで身体を動かす活動を取り入れて欲しいという要望が多く聞かれている。

地域貢献活動の一環として、地域清掃・機関誌の地域配布を行っている。また、毎週水曜日には社会福祉法人

慈母会のリッチフィールドでパン作り体験にご希望された方が参加されている。

〇権利擁護について

別紙参照。

〇苦情について

別紙参照。

〇DVD にて虹の家の紹介

4 月～3 月までの活動等をスクリーンにて見て頂く。

5.【質疑応答】

障害者支援事業所 理事長）外部の人や実習についての受け入れ状況を教えて欲しい。

⇒虹の家では麻溝ボランティア協会からの依頼や学生（専門学校等）からの受け入れの問い合わせがある。

他にも虹の家のホームページを見られ電話にて相談があり対応している。

福祉系の専門学生や保育関係の学生の単位実習等である。教職課程での実習受け入れはここ数年間ない。

中学生の職場体験に関しては、今年度より期間を設けずオールシーズン受け入れ可能で対応している。

6.【施設見学】

虹の家・ケアセンターやすらぎ・虹の星の見学を行った。

議　事　録

（会議名：地域連携推進会議）

議　題	１：司会より地域連携推進会議の趣旨説明　２：出席者自己紹介　３：施設長より挨拶 ４：虹の家の取り組みについて　５：質疑応答　６：施設見学

7.【次回の予定】

令和9年2月中に行う予定。